

親方の言葉から学ぶ「伝える責任」

「努力は人を裏切らない。そして身に付けた知識や技術は、誰も盗む事は出来ない。ただし、それを身に付けたいと努力している者には、伝えなくてはいいけない。」昔、修業先の親方が私におっしゃった言葉です。

残念ながら、七年前に他界されましたが、その親方から教わった知識・技術、そして料理人の心は、今の自分の糧となっており、この言葉と共に今まで歩んできました。

「努力は人を裏切らない。そして知識や技術は、誰も盗む事は出来ない」文字通り、修業時代の努力は必ず報われる。そして習得したものは、料理人として生きていく上で、自分の財産になるという意味です。辛くて辞めようと思った時、この言葉を思い出しては、自分自身を鼓舞して乗り切ってきたものでした。ただ、「それを（知識や技術）を身に付けたいと努力している者には、伝えなくてはいいけない」の言葉だけは、今になってもようやく、ある方の助言を通じて、本当の意味を知ることが出来た気がします。

私の店が開店して三年が過ぎた頃、あるお客様が「弟子は育てないの？」と私に聞かれました。その方は開店当初から私を応援して下さいている、五十代の男性でした。私が「やりたい人間がいれば育ててもいいかなとは思いますが、自分一代で終わってもいいとも思っています」と答えたところ、そのお客様は激怒され、「ふざけるな！親方が君に伝えた事は、そのまた親方から伝えられた事だ。そうやって何人もの先人達が引き継

いできたものを、君が勝手に絶やすことは許されないんだよ。」と言われました。それを聞いた私は、自分の浅はかな考えが情けなくて、涙が溢れてきたのを覚えていました。「何かを極めるという事は、自分が努力すると同時に、後進に伝えるという責任が生じるという事なんだ。」その親方が言いたかったのではないかと、そのお客様の助言が私に気付かせてくれたのでした。

自分の店を持つという夢を叶えて八年。私には今「自分の全てを伝えたいと言える料理人を育てる」という夢があります。親方の言葉から学んだ「伝える責任」を果たすために…

（てんぱら ひら井 店主 平井真一朗）

